

2018年度 分野別計画進捗等報告書

体系番号
02010203

1. 計画名称

茅野市文化芸術推進計画

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	茅野市生涯学習推進指針を踏まえ、茅野市文化芸術推進計画の基本理念実現に向けた各施策の事業展開を行うことができた。文化芸術活動に親しみきっかけづくりが各方面で行われたことにより、それぞれの施策は充実してきている。一方、活動が活発になるが故マッピングによる把握が必要となる課題も生まれている。
今後の重点化施策番号	1	説明	地域文化の創造と文化芸術活動の推進を図ることは基本理念の実現につながる。今後も鑑賞機会や発表機会の充実、情報及び活動拠点の整備、自主的な活動の推進が行われるよう市民や団体、事業者等と協力・連携していく。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	地域文化の創造と文化芸術活動の推進	おおむね順調	60周年記念事業等著名な公演や美術展を実施し、市民館の入場者数は過去最高の17万人を超えた。今まで足を運んだことのない市民に鑑賞の機会を提供し、文化意識の向上も図られた。また、協働による芸術環境づくりが評価され、地域創造大賞(総務大臣表彰)を受賞し広く存在を示した。	特別な催事や新たな取組に対しては多くの参加者が得られたが、芸術祭など長く継続している取組は高齢化による団体の解散や参加者の減少が課題となっている。市民館は施設・設備の経年劣化と耐用年数の到来が迫り、計画的な改修が必要。	地域に文化の種を蒔く事業と一般的に楽しめる事業の両方をバランスよく実施するよう指定管理者と情報共有し連携を図っていく。また、芸術文化協会(公民館)とサポートC(市民館)の連携を支援する。市民館中長期改修計画をもとに劣化状況の把握(点検)と更新工事を実施していく。
2	文化芸術活動に関わる人材の育成	おおむね順調	小中学校における優良芸術鑑賞講座、親子で楽しむファミリー演劇鑑賞を中心に子どもたちの好奇心や感性を育む取組が継続され、文化芸術に触れる機会や創造に関わるきっかけづくりとなっている。芸術祭や指定管理者による人材育成事業により団体の連携やサポーターの育成も進んだ。	ファミリー演劇鑑賞事業は単に公演を実施するだけでなく、企画から当日の運営に市民が参加し、地域に文化芸術を楽しむ風土を根付かせることを目的としている。演目と鑑賞するターゲットのマッチングにより鑑賞者は大幅に増加したが委員の固定化や新たな委員の獲得は難しくなっている。	全ての市民が文化芸術に触れる機会が持てるようPRを工夫するとともに、次世代を担う子どもたちの創造力を育む取組が様々な場所で展開できるように、学校、施設、指定管理者、NPO等と協力・連携し実施していく。
3	文化の継承による魅力ある地域づくりの推進	おおむね順調	現在、美術館の資料収集は寄贈に頼っている状況であるが、今年度も貴重な作品10点(スケッチ・写真等)を受入することができ、特色ある作品展の開催に結び付けることが可能となっている。	公立美術館の役割である資料収集、作品展示、調査研究のうち、資料収集について市が寄附等検討委員会を設置し審査を行っている。市の収集方針による適正な収集と活用ができるよう指定管理者との連携が必要。	郷土出身作家の特色ある作品を多く収蔵する館として、その作品を広く活用し、市のアピールにつなげていく方針の検討が必要。寄附等検討委員、指定管理者との連携の中で検討、推進していく。
4	文化芸術を活用したまちづくり	おおむね順調	縄文まつりの来場者は市外、県外からも増えており、茅野市の縄文文化の重要性を知ってもらう大きな機会となっている。また、長野・山梨の関係14市町村で構成した縄文文化圏が日本遺産に認定され、縄文を発信する機運が高まった。	「まちづくりに縄文文化や国宝などの文化遺産が活用されている」と思う市民の割合は65%前後で横ばい。多くの市民に取組への興味や関心を持ってもらえるような展開が必要である。また、地域の伝統文化を活用した滞在交流プログラムも開発されたが、利用者数は伸びていない。	第1回八ヶ岳JOMONライフフェスティバルに向けた体制づくりを行い、広く市民が参加できるような企画の構築を図る。
5					

※5つ以上の場合は裏面へ

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	茅野市文化芸術推進委員会	市民館に関わる組織も広がりがオリティも上がっている。市民が主体となって活動することにより充実した。今後は、情報の一元化により多くの市民が文化芸術に出会う環境づくりが必要。また、それぞれの活動をマッピングにより把握することが求められている。	情報の一元化実現には各方面の連携が不可欠となるため、情報担当部署に働きかけていく必要がある。また、マッピングの推進は今後の課題である。市民や団体、事業者等と協力・連携して文化芸術活動の推進に取り組んでいきたい。
開催回数	1		
参加延べ人数	12		
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			

5. 添付資料

別紙「施策評価シート」